

# 取り扱い誤りが発生した時に思うこと②

## 明日は我が身です

取り扱い誤りが発生したとき、職場はどのような雰囲気ですか？「信号違反発生」「否認発生」のような掲示が見られ、ピリピリした空気になっていると思います。

ところで、このときの乗務員どうしの会話はどうでしょう？  
◎〇がやらかしたらしいよ」 ◎〇が事故起こしたのは何回目、もうダメだろ」 きつき〇〇が、めっちゃくちや怒られてた。」このような内容の話が多いように思われます。事故を起こしたのが自分ではない場合には、簡単にこのような話題を出すことができません。しかし、起こした本人はそれどころではありません。

そもそも、私たちは今後、百パーセント事故を起こすことはないと断言できるでしょうか？もちろん、意図的に事故を起こそうと思っている人はまずいないでしょう。しかし、私たちの労働環境はいかがですか？**早朝出勤、短い睡眠時間、長い拘束時間**…このような要因によって体力や集中力が奪われ、業務に支障をきたすことも十分考えられるのではないのでしょうか？もはや心身の健康状態を無視した「プロ意識」にも限界があります。

取り扱い誤りが起きるのは、決して他人ごとではありません。

## 私たちが恐れていること

ある乗務員が取り扱い誤りを起こした時、事故を起こしたのは〇〇だよ」といった類の話題がいたるところに広がっていきます。時には、まるで面白がっているかのような印象を受けることもあります。しかし、もし自分が事故を起こしたら…と考えたときにどうでしょう。

事故を起こして、それ以来、職場に出て来れなくなる方もいると聞いています。なぜでしょう？確かに、上司から厳しいことを言われたというの大きな理由です。しかし、本当にそれだけでいいか？自分のことがいろいろと噂されて、周囲からの目に耐えられないということも原因として考えられるのではないのでしょうか？

**仕事でミスを起こした際、本人にとって大切なのは反省することです。委縮することではありません。**

「誰が事故を起こしたか」ではなく、「なぜ事故が起きたのか」が重要では…？



普段から労働環境について考える習慣をつけましょう。



# 若い力

第 77 号

2017年 8月 15日

発責 国労九州本部

博多区博多駅東3丁目9番3号

ニッコーハイツ1003号

JR 092-2075

NTT092-483-1515